

9-2 沖縄地方とその周辺の地震活動（2025 年 11 月～2026 年 4 月）

Seismic Activity around the Okinawa District (November 2025 – April 2026)

気象庁 沖縄気象台

Okinawa Regional Headquarters, JMA

今期間、沖縄地方とその周辺で M4.0 以上の地震は 193 回、M5.0 以上の地震は 29 回発生した。このうち最大は、2025 年 12 月 28 日に台湾付近で発生した M7.0 の地震であった。

2025 年 11 月～2026 年 4 月の M4.0 以上の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。

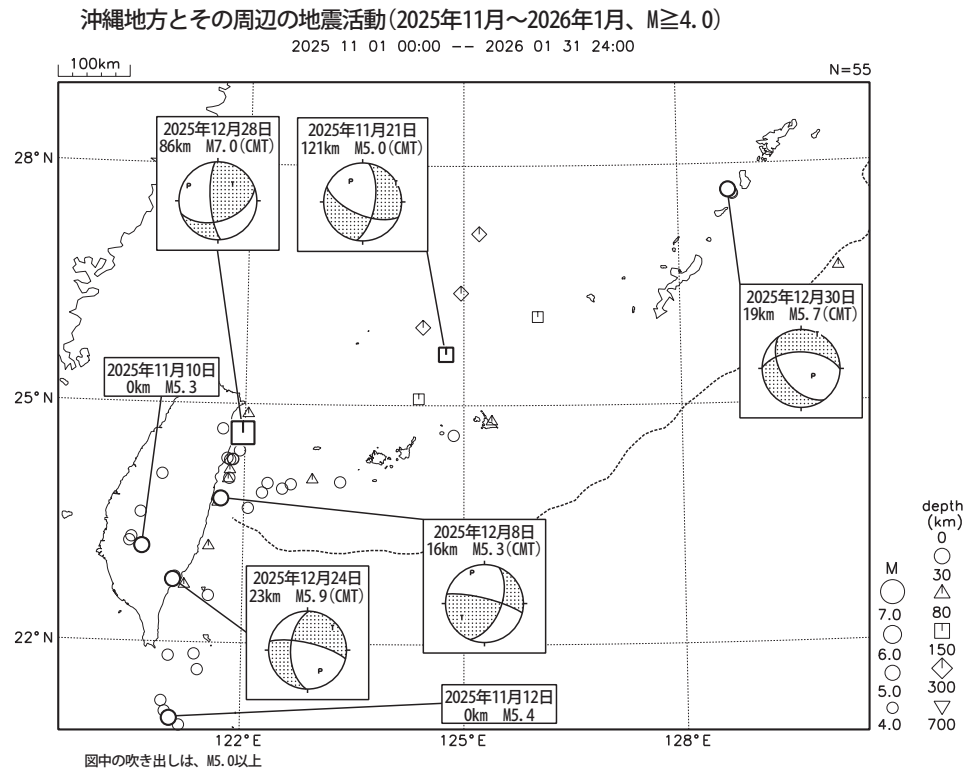
主な地震活動は以下のとおりである。

(1) 台湾付近の地震（M7.0、日本国内で観測された最大の揺れは震度 3、第 2 図）

2025 年 12 月 28 日 00 時 05 分に台湾付近の深さ 86km で M7.0 の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度 3）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型である。

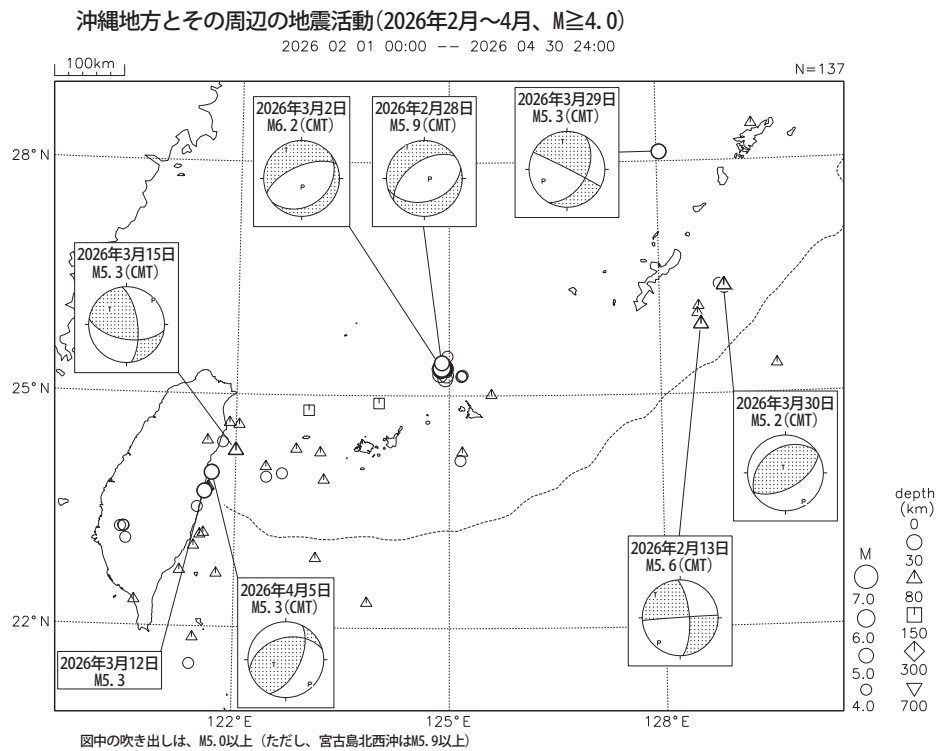
(2) 宮古島北西沖の地震（M6.2、最大震度 3、第 3 図 (a)～(e)）

宮古島北西沖では、2026 年 2 月 26 日から地震活動が活発となり、2 月 26 日から 3 月 31 日までに震度 1 を観測する地震が 32 回（震度 3：1 回、震度 2：13 回、震度 1：18 回）で、これら一連の地震活動は、沖縄トラフ沿いで発生している。このうち最大規模の地震は 2026 年 3 月 2 日 19 時 39 分に宮古島北西沖の深さ 5km で M6.2 の地震（最大震度 3）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は、北北西－南南東方向に張力軸を持つ正断層型で陸のプレート内で発生した。



第 1 図 (a) 沖縄地方とその周辺の地震活動 (2025 年 11 月～2026 年 1 月, $M \geq 4.0$, 深さ ≤ 700 km)

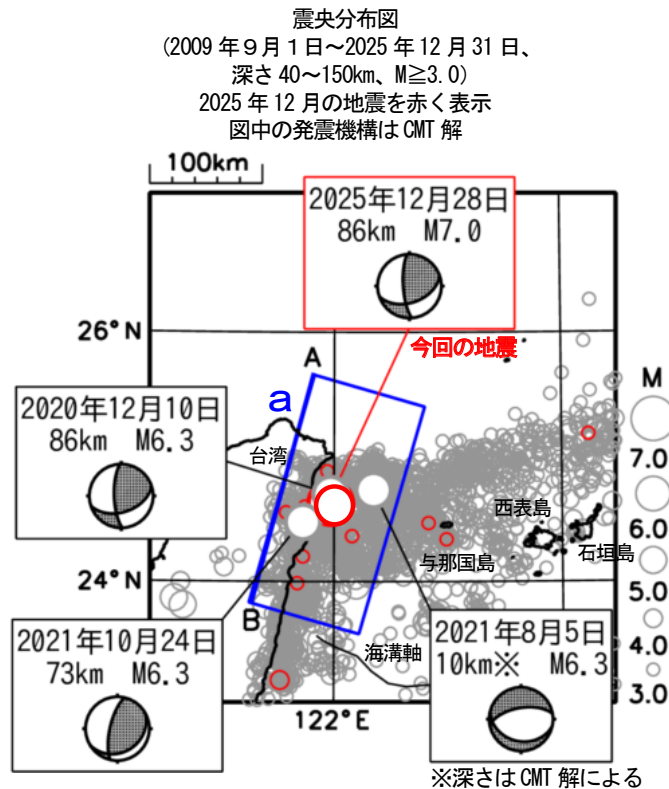
Fig. 1(a) Seismic activity around the Okinawa district (November 2025 – January 2026, $M \geq 4.0$, depth ≤ 700 km)



第 1 図 (b) つづき (2026 年 2 月～4 月, $M \geq 4.0$, 深さ ≤ 700 km)

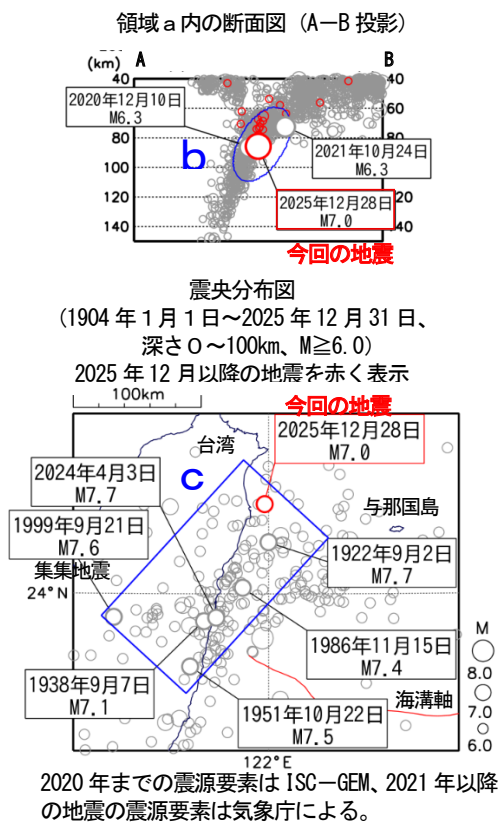
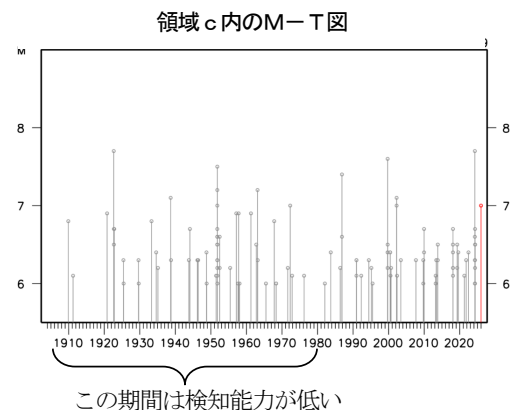
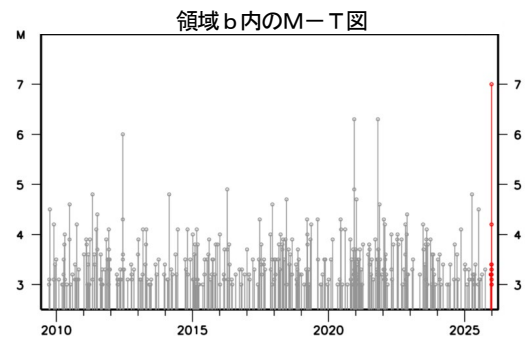
Fig. 1(b) Continued (February - April 2026, $M \geq 4.0$, depth ≤ 700 km)

12 月 28 日 台湾付近の地震



2025 年 12 月 28 日 00 時 05 分に台湾付近の深さ 86km で $M7.0$ の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度 3）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構（CMT 解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型であった。

2009 年 9 月以降の活動をみると、この地震の震源付近（領域 b）では、2020 年 12 月 10 日に $M6.3$ の地震（日本国内で最大震度 2）が発生するなど、 $M5.0$ 以上の地震が時々発生している。



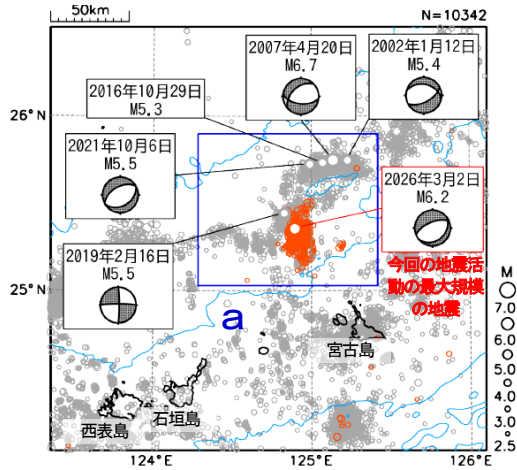
1904 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 c）では、過去に $M7.0$ 以上の地震が時々発生している。1986 年 11 月 15 日に $M7.4$ の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度 3）により、宮古島平良で 30cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測し、台湾では死者 13 人、負傷者 45 人などの被害があった（被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による）。

第 2 図 2025 年 12 月 28 日 台湾付近の地震

Fig. 2 The earthquake near Taiwan on December 28, 2025

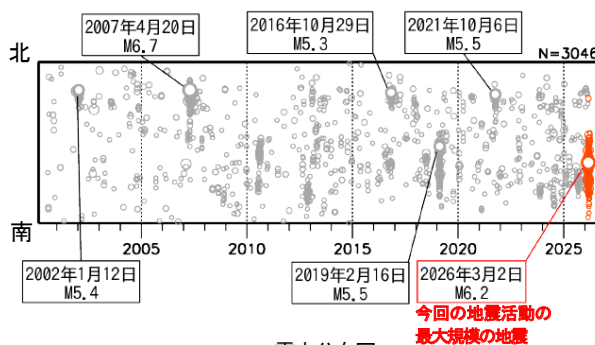
宮古島北西沖の地震活動

震央分布図
(2000 年 7 月 1 日～2026 年 3 月 31 日、
深さ 0km～50km、 $M \geq 2.5$)
2026 年 2 月 26 日～3 月 31 日の地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解

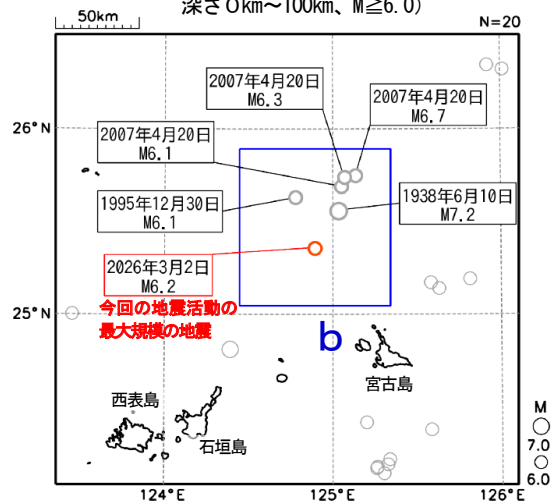


図中の水色の等値線は、水深 1500m を示す

領域 a 内の時空間分布図 (南北投影)
(2000 年 7 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)



震央分布図
(1919 年 1 月 1 日～2026 年 3 月 31 日、
深さ 0km～100km、 $M \geq 6.0$)

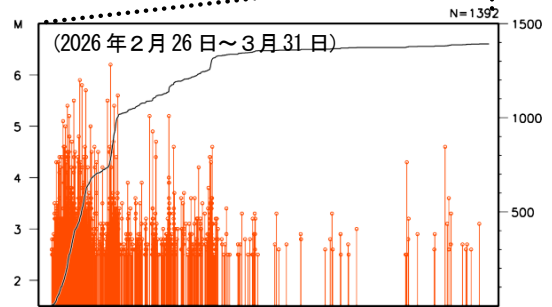
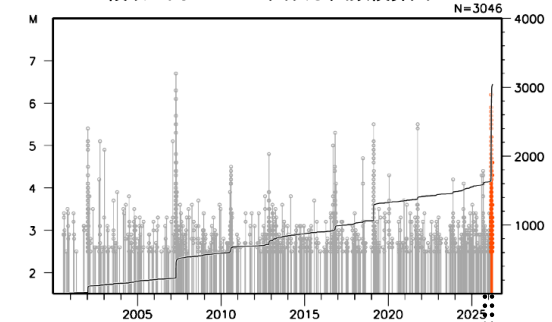


宮古島北西沖では、2026 年 2 月 26 日から地震活動が活発となり、2 月 26 日から 3 月 31 日までに震度 1 以上を観測する地震が 32 回 (震度 3 : 1 回、震度 2 : 13 回、震度 1 : 18 回) で、これら一連の地震活動は、沖縄トラフ沿いで発生している。このうち最大規模の地震は 3 月 2 日 19 時 39 分に発生した $M 6.2$ の地震 (最大震度 3) で、発震機構 (CMT 解) は、北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型で陸のプレート内で発生した。

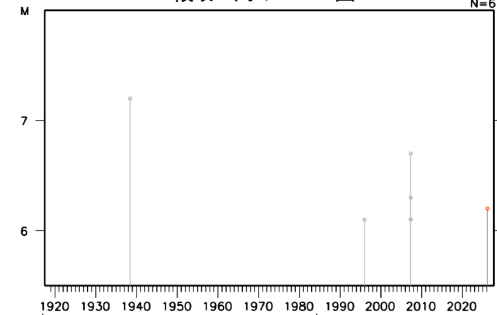
2000 年 7 月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 a) では、 $M 5.0$ 以上の地震活動が時々見られる。2007 年 4 月 20 日には、 $M 6.7$ の地震 (最大震度 3) が発生した。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 b) では、 $M 6.0$ 以上の地震がまれに見られる。1938 年 6 月 10 日には $M 7.2$ の地震 (最大震度 4) が発生しており、宮古島平良港に地震後 10 分で津波が襲来して高さ 1.5m (目視による最大の高さ)、栈橋の流出などの被害があった (被害は、日本被害地震総覧による)。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



領域 b 内の M-T 図

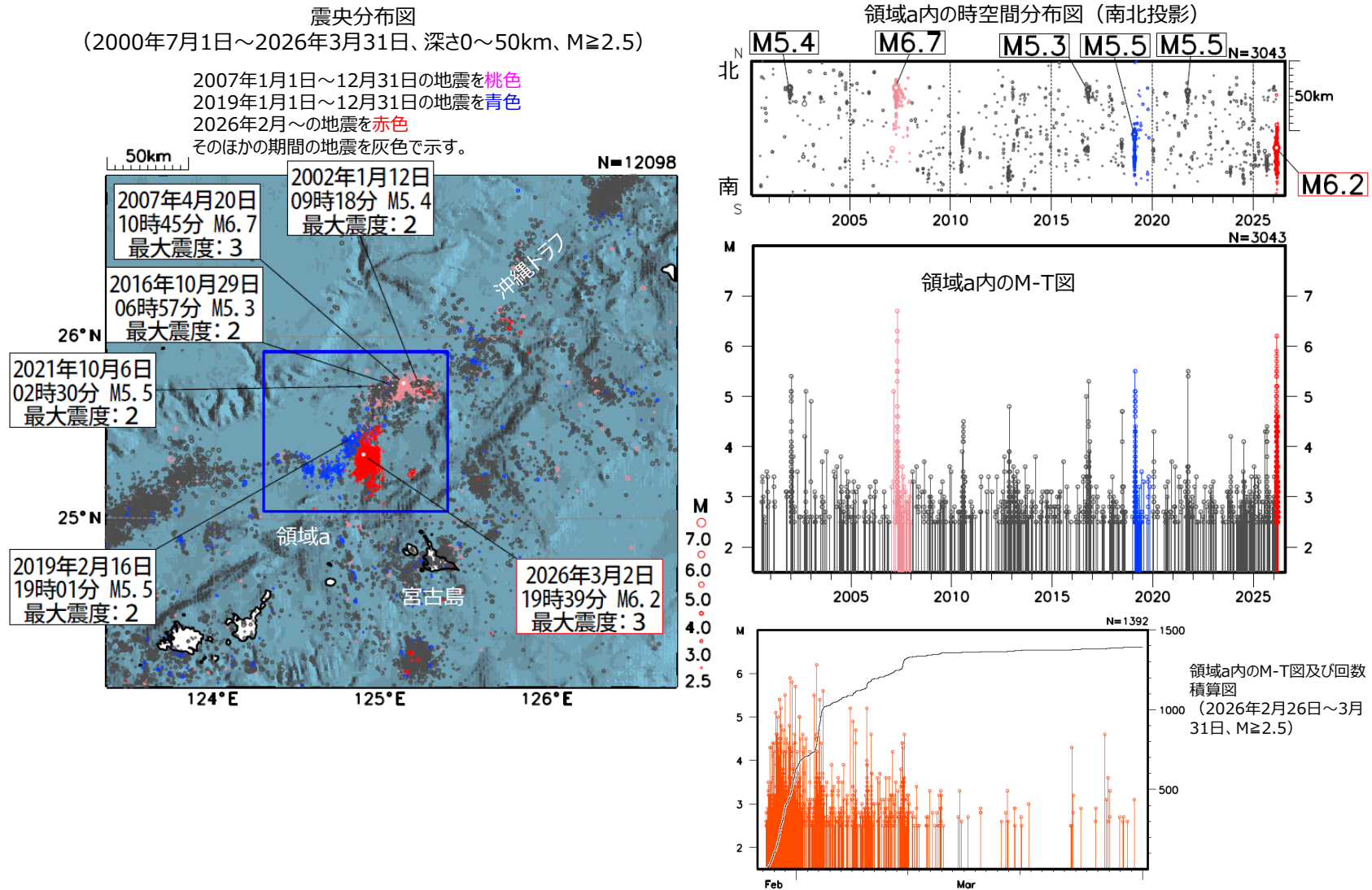


この期間地震の検知能力が低い

第 3 図 (a) 2026 年 3 月 2 日 宮古島北西沖の地震

Fig. 3(a) The earthquake Northwest off Miyako Island on March 2, 2026

宮古島北西沖の地震活動

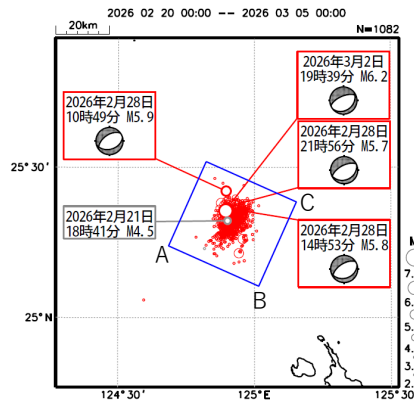


第3図(b) つづき

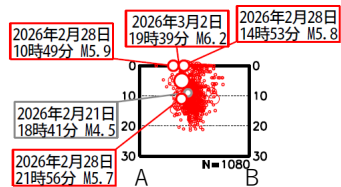
Fig. 3(b) Continued.

宮古島北西沖の地震活動

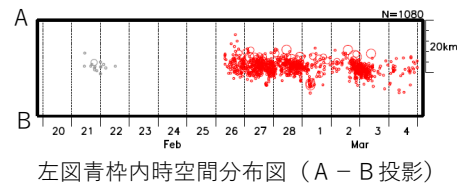
2月20日から3月4日までのデータを使用し波形相関を用いたDD(Double-Difference)法による震源再決定を行った。



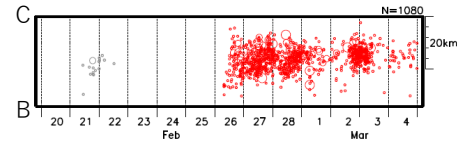
一元化震源の震央分布図
(2026年2月20日～3月4日、 $M \geq 2.5$ 、深さ0-30km)



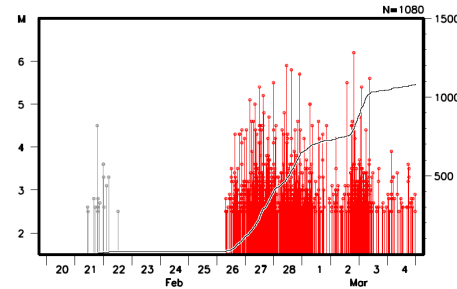
左図青枠内断面図 (A - B 投影)



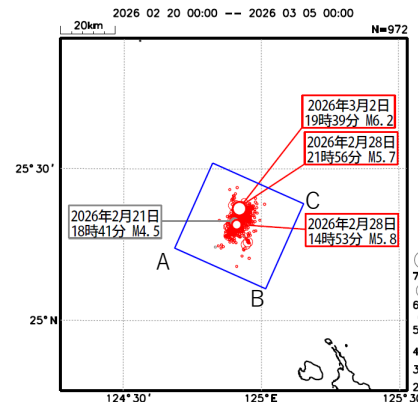
左図青枠内時空間分布図 (A - B 投影)



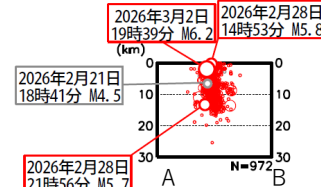
左図青枠内時空間分布図 (C - B 投影)



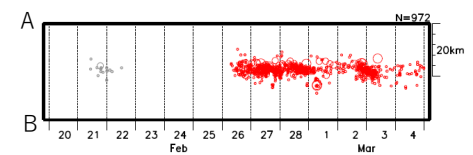
左図青枠内のM-T図



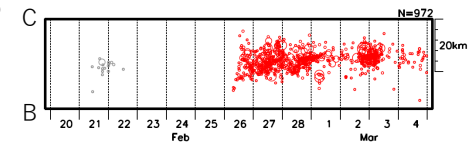
DD震源の震央分布図
(2026年2月20日～3月4日、 $M \geq 2.5$ 、深さ0-30km)



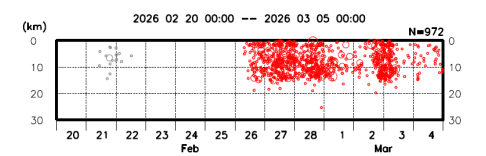
左図青枠内断面図 (A - B 投影)



左図青枠内時空間分布図 (A - B 投影)



左図青枠内時空間分布図 (C - B 投影)



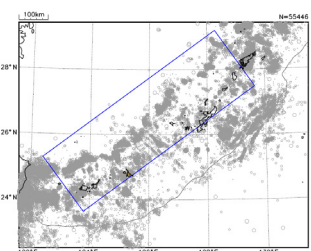
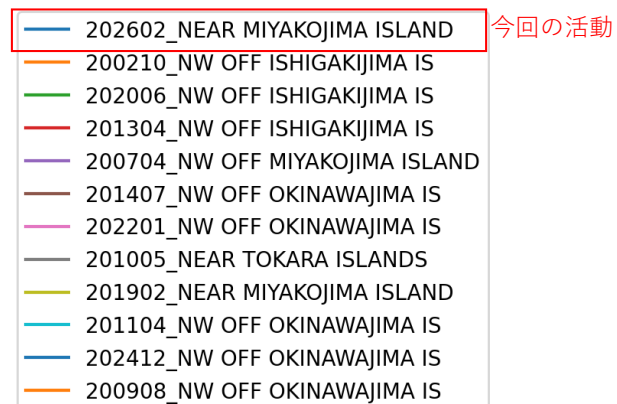
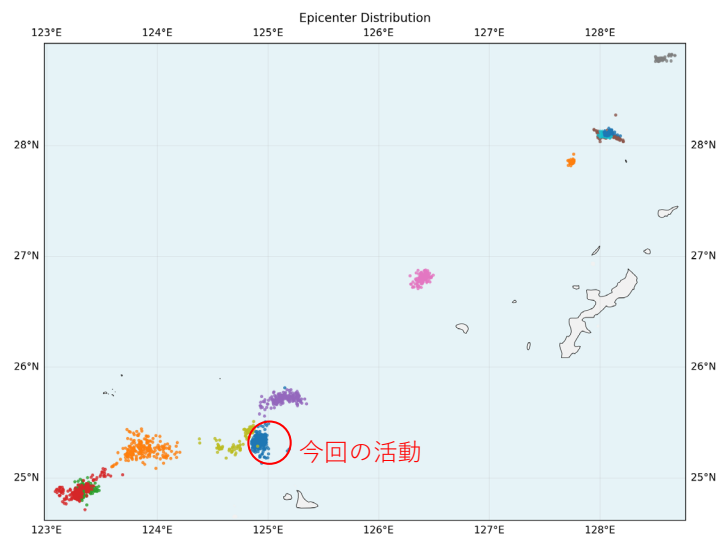
左図青枠内深さの時系列

※ 2月28日10時49分に発生したM5.9の地震は相関が取れなかったためDD震源ではなくなっている。

第3図(c) つづき

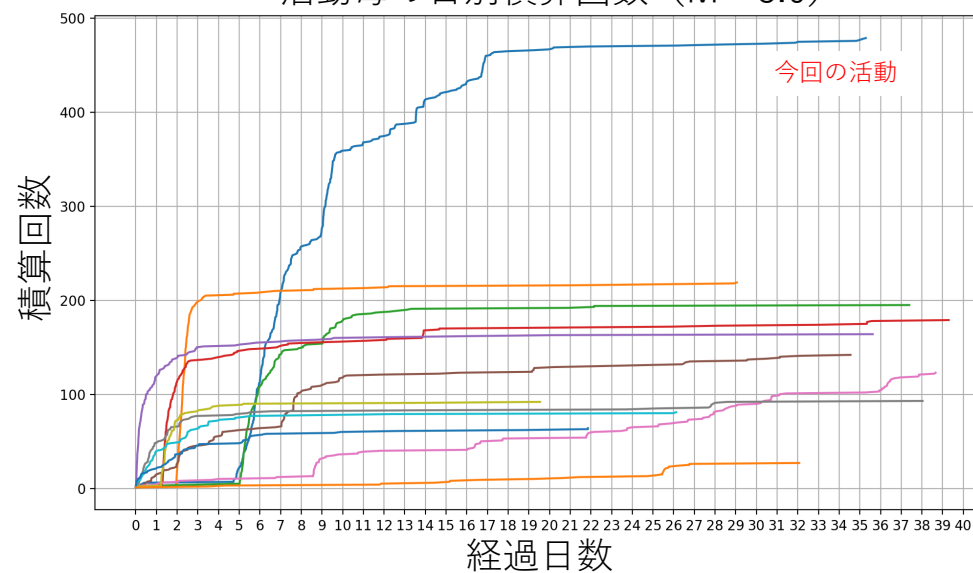
Fig. 3(c) Continued.

宮古島北西沖の地震活動



南西諸島付近(図の青枠内)で1997年10月1日から2026年3月29日、M2.5以上、深さ0-50kmの地震のうち200個以上のまとまった活動が検知されたものについて、その震央位置と回数積算をプロットした。ただし、プロットは過去の検知力を考えM3.0以上で行っている。

活動毎の日別積算回数 (M ≥ 3.0)



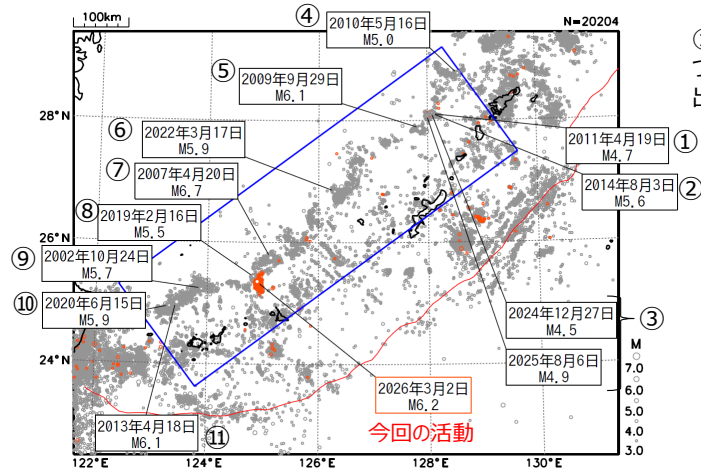
第3図(d) つづき

Fig. 3(d) Continued.

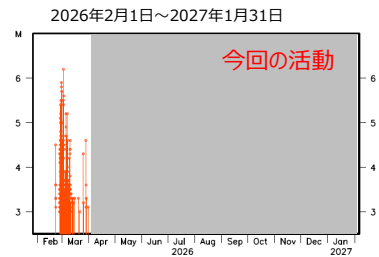
宮古島北西沖の地震活動（沖縄トラフの過去の地震活動）

震央分布図

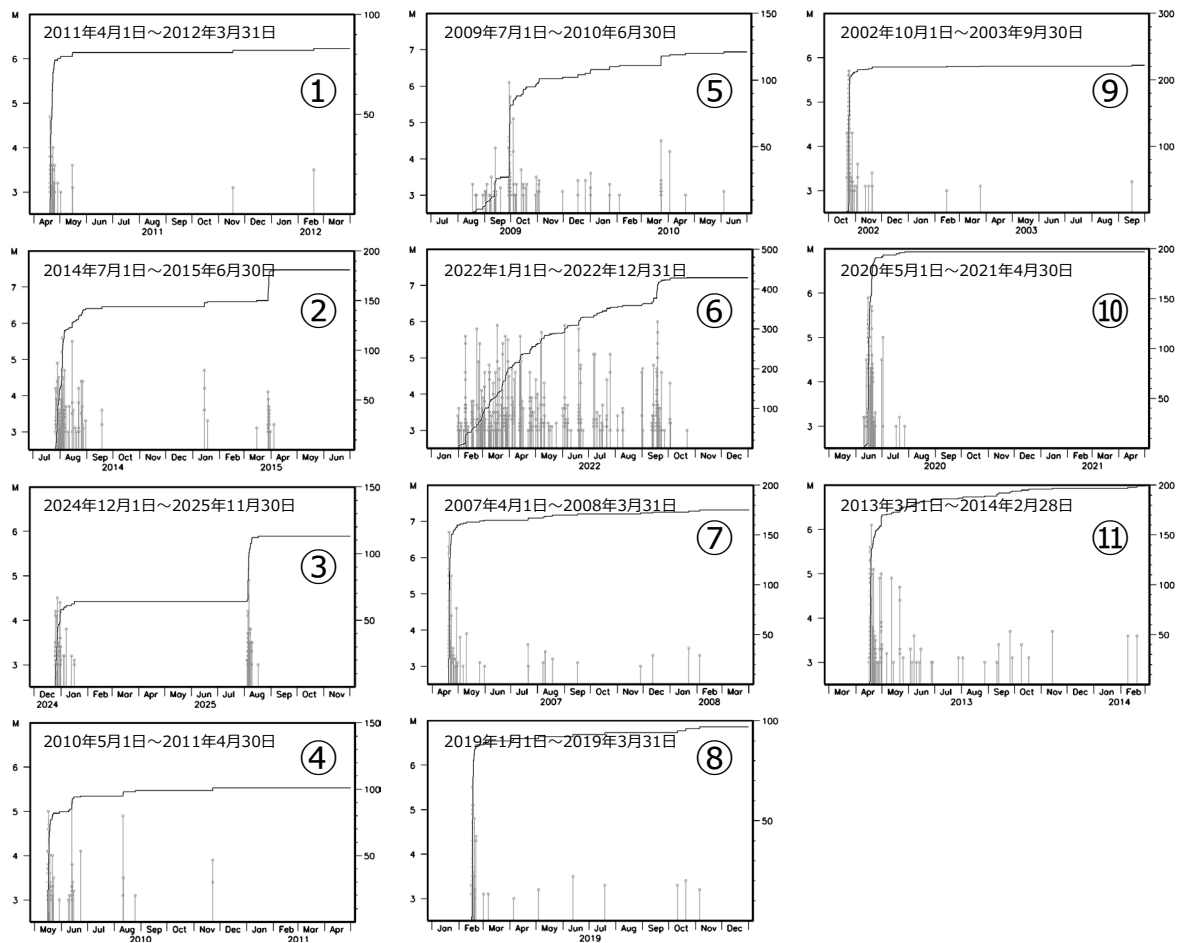
2000年7月1日～2026年3月31日、深さ 0～50km、 $M \geq 3.0$



①～⑪の地震は、青色矩形領域内の地震について、Zaliapin et al. (2008)を用いて抽出した、まとまった活動



活動①～⑫のM-T図及び回数積算図（ $M \geq 3.0$ 、1年間を表示）



第 3 図 (e) つづき

Fig. 3(e) Continued.